

【戦略プロジェクト評価(令和2年度)】

戦略プロジェクトの概要

戦略プロジェクト名	みんなが支える子ども・子育て安心プロジェクト
期待する効果	盛岡で子どもを産み育てたいと思われるまちなる
重点取組期間	平成30～令和2年度
主管部名	子ども未来部
戦略プロジェクト統括マネージャー	藤澤 忠範 子ども未来部長

戦略プロジェクトに取り組む背景	戦略プロジェクトの取組の内容
生産年齢人口の減少が進む中、活力ある社会を築いていくため、若い世代にとって暮らしやすい、子育てがしやすい、また女性にとって社会進出がしやすいなど、若い世代や女性が住み続けたいと思えるまちなることを本市の重要課題となっている。	若い世代や子育て世代が、希望を持って子どもを産み育てることができるよう、さまざまな保育ニーズに柔軟に対応するための支援を行うなど、子育て環境を充実させる。 また、子育ての相談や子どもの健全な成長を支援する体制の充実を図り、盛岡に住み続けたいと思える、安心して子育てのできるまちなるを実現する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
子育てをしている人 子ども	子育てしやすいと感じ、子育てに関する不安が少なくなる。 家庭環境や経済状況によらず、健やかに育つ。

目標指標の状況・評価(令和2年7月時点)

実績値の推移		実績の評価	
指標	単位	「指標の目指す方向」に向けて特に寄与している点	特に寄与している点の要因分析
指標① 1月1日現在の待機児童数 当初値(H28) 218 R2目標値 0 目指す方向 ↘ 	人	・認可保育所、小規模保育所等の定員拡大を進め、令和2年4月に向けて375名の定員拡大を図った。 ・定員を超えて児童を受け入れた保育施設に対し、定員充足率に応じて必要とする経費の補助を行った。 ・保育士奨学金返還支援事業補助事業により131名の保育士に、保育士宿舍借り上げ支援事業により22事業者に、若手保育士処遇改善支援事業により22事業者に補助を行った。	・社会福祉法人等からの保育所開設相談に応じるとともに、遊休物件を活用した小規模保育所の整備を行ったことが定員拡大に繋がった。 ・定員を超えた児童の受け入れに対する補助の基準日を年2回とすることで、施設が取り組みやすい状況になっている。 ・若手保育士が働き続けられるよう経済的支援の拡大を図ったことで、保育士確保に繋がっていると考えられる。
指標② まちづくり評価アンケート調査「子育てをつらいと感じている」と答えた子どものいる親の割合 当初値(H28) 24.0 R2目標値 13.6 目指す方向 ↘ 	%	・「空き待ち児童も含めると、年間を通じた保育所入所希望者全員の入所には至っていない。 ・第2期盛岡市子ども・子育て支援事業計画における地域ごとの教育・保育の必要な量の見込みと、空き待ち児童の現状を比較しながら、施設整備等を行う必要がある。 ・保育所定員の拡大とともに、保育を担う保育士の確保を行う必要がある。	・女性の社会進出が増加するとともに、育児休業後に職場復帰するなど年度途中の保育所の入所希望が増加している。 ・定員を超えた児童の受け入れの実施状況と施設整備は密接な関係にある。 ・関東地方など都市部に就職先を求める保育士が増えている。
指標③ まちづくり評価アンケート調査「盛岡市の子育て支援策・支援活動が充実していると感じる」と答えた市民の割合 当初値(H28) 15.2 R2目標値 42.0 目指す方向 ↗ 	%	・「もりおか子育て応援プラザma*mall」の令和元年度の利用者が、新型コロナウイルス感染症の影響がある期間を除いた比較では、平成30年度から412人増加した。 ・児童家庭相談受付件数が、30年度の5,143件から元年度7,267件へ大幅に増加した。	・「もりおか子育て応援プラザma*mall」の認知・定着が進み、利用者が増加した。子育て支援ニーズに関するアンケート調査では、充実を望む支援策として「子連れでもでかけやすく楽しめる場所」を求める声が70.1%と高いことから、施設を充実させて利用者を増やすことが、子育ての不安感や孤立感の解消につながるものと考えられる。 ・子ども家庭総合支援センターと子育て世帯包括支援センターの連携により、市としての相談受付体制が強化された。
指標④ まちづくり評価アンケート調査「盛岡市の子育て支援策・支援活動が充実していると感じる」と答えた市民の割合 当初値(H28) 15.2 R2目標値 42.0 目指す方向 ↗ 	%	・「もりおか子育て応援プラザma*mall」の令和元年度の利用者が、新型コロナウイルス感染症の影響がある期間を除いた比較では、平成30年度から412人増加した。 ・子ども未来基金を活用した補助事業により、21の個人・団体が子ども・子育て支援の活動を行った。 ・児童センターの児童厚生員配置基準を見直し、適正な配置に改めた。 ・公立の保育園、小中学校、児童センターにおいて、エアコンの設置及びトイレの洋式化を行い施設環境改善を行った。 ・2年度から第2子の保育料の無償化、副食費の補助、学童クラブの第2子以降の利用料無償化、低所得世帯の利用料軽減を実施している。	・核家族化の進行を背景に、子育て支援ニーズが多様化・複雑化しており、妊娠・出産期から就学期に至るまでの切れ目のない支援と、社会全体で子育てを支える機運の醸成が求められているが、子育ての負担感を改善する水準に至っていない。 ・児童数が増加している盛岡地区において地域子育て支援拠点が求められている。
指標⑤ まちづくり評価アンケート調査「盛岡市の子育て支援策・支援活動が充実していると感じる」と答えた市民の割合 当初値(H28) 15.2 R2目標値 42.0 目指す方向 ↗ 	%	・「盛岡市の子育て支援策・支援活動が充実していると感じる」と答えた市民の割合が横ばい状態である。 ・市内の全ての児童に対して健全な遊びの場を提供するため、児童センターが未設置の小学校区の解消を進める。	・「もりおか子育て応援プラザ」の開設、「子ども未来基金の創設」、「待機児童解消緊急プロジェクト」等新しい子育て支援策を講じているが、子育て世代や関係者には周知が進んでいるものの、市民全体までは広がっていないものと考えられる。 ・児童センターが未設置の小学校区において、身近に遊べる施設がない(少ない)。

今後の展開(評価時点～令和3年度)

評価を踏まえた今後の取組
☆1 定員を超えて児童を受け入れた保育施設に対し、必要となる経費の補助を行う。 ☆2 定員を超えて児童を受け入れた保育施設に対し、定員充足率に応じて必要とする経費の補助を行う。
☆1 児童数が増加している盛岡地区への地域子育て支援拠点の開設を検討する。 ☆2 子ども家庭総合支援センターにおいて、県(児童相談所)との人事交流の継続や、相談担当職員の専門性の向上、養育訪問支援の充実など、相談受付及び支援体制の強化を検討する。
☆1 児童数が増加している盛岡地区への地域子育て支援拠点の開設を検討する。 ☆2 子ども未来基金を活用した補助制度を継続し、個人・団体による子ども・子育て支援活動のさらなる促進を図る。 ☆3 児童センターが未設置の小学校区への整備を進める。

